

平成29年度第1回「墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会」 「墨田区子ども・子育て会議」議事要旨

日時：平成29年4月17日（月）午後6時30分～8時00分

会場：墨田区役所 131会議室

次 第

1 開会

2 議題

議 題	資料No.
(1)「墨田区次世代育成支援行動計画 墨田区子ども・子育て支援事業計画」の 中間見直しについて	資料1～2
(2) その他	

3 次回開催予定

4 閉会

配布資料

- 資料1 「墨田区次世代育成支援行動計画 墨田区子ども・子育て支援事業計画」見直しに向けた課題整理
- 資料2 「墨田区次世代育成支援行動計画 墨田区子ども・子育て支援事業計画」（平成29年月改定（案））
- 資料3 平成29年度墨田区子ども・子育て会議等スケジュール（案）

出席者（敬称略）

○委員

- 大豆生田 啓友（玉川大学大学院教育学研究科教授）
- 野原 健治（興望館館長）
- 高嶋 景子（田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科教授）
- 長田 朋久（横川さくら保育園長）
- 西島 由美（にしじま小児科院長）
- 服部 榮（社会福祉法人雲柱社理事長）
- 押田 剛（主任児童委員）
- 佐瀬 一夫（中学校PTA連合会会長）
- 内田 淳（青少年委員協議会委員）
- 根里 美佐（堅中地区青少年育成委員会委員長）

賀川 祐二（NPO 法人病児保育を作る会代表理事）

小菅 崇行（小菅株式会社代表取締役会長）

青塚 史子（八広認定こども園長）

渡邊 圭三（東吾嬬小学校長）

近藤 ゆき江（八広幼稚園長）

陳 晨（公募）

関 舞衣子（公募）

荘司 美幸（公募）

佐藤 摩耶子（公募）

小林 佳香（公募）

＜欠席委員＞

杉浦 浄澄（江東学園幼稚園副園長）

相澤 しのぶ（立花吾嬬の森小学校 PTA 会長）

佐藤まり子（ムーミン保育室施設長）

高橋 朋宏（文花子育てひろば施設長）

中村 信幸（連合墨田地区協議会議長）

貞松 成（株式会社 global bridge 代表取締役）

本多 美絵子（両国幼稚園副園長）

熱田 美帆（公募）

西村 均（堅川中学校）

＜傍聴＞

0名

○部課長出席者

青木 剛（福祉保健部長）、石井 秀和（子ども・子育て支援部長）、後藤 隆宏（教育員会事務局次長）、北村 淳子（保健衛生担当部長）、浮田 康宏（子育て支援課長）、高橋 義之（子ども政策課長）、金子 明（子ども施設課長）、村田 里美（子育て支援総合センター館長）、

○事務局出席者（検討チーム含む）

戸村、土井、坂田、関根、高橋、岩佐、酒井、正岡、益田

○事務局（株名豊）

渡邊

2 議題

(1)「墨田区次世代育成支援行動計画 墨田区子ども・子育て支援事業計画」の中間見直しについて

会長	今日は大きな議題 1 点とその他になります。事務局から説明をお願いします。
事務局	(資料説明)
会長	それではみなさんからご意見やご質問等を挙げていただければと思います。
委員	まずは誤植です。一番右側の現段階の見直しに向けた課題の「子育てに自身がない」が自信の誤りです。 それから 4 (1) 保育ニーズ、「1 歳以下から利用したいニーズが高い」と書かれています。問 17 はそのような問ではないように思います。これに近い答えを探すと 16 ページ、問 16「何歳くらいになったら利用しようと考えているか」が 1 歳にあたります。修正する前のとおり、「1 歳から」の表現が正しいのではないかと思います。 続けて、6 現計画の見直しに向けた課題、ポッチの 2 つ目になります。「いつになったら働きたいかについては、一番下の子どもの年齢の低年齢のうちから働きたい母親が増えている」と書かれています。この質問は母親の年齢や子どもの年齢は書かれていなくて、すぐに働きたいと答えた方の人数になります。子どもが 3 歳や 4 歳の母親が、すぐに働きたいと言っている可能性もあると思います。この調査からでは子どもの年齢を引っ張ってこなければ、このような答えは出ないと思います。
事務局	最初の誤植は大変失礼しました。 「1 歳から」の記載について、事務局も表現に迷いました。「1 歳から」のということも含めて、もう一度再考させていただきます。
委員	質問に「下の子どもが何歳になったら働きたいか」「そしてすぐに働きたいか」があると思いますが、母親と子どもの年齢が書かれていません。子どもが 3 歳や 4 歳ですぐに働きたいのか、0 歳ですぐに働きたいのかはこの表からは読み取れないのではないかと質問をしました。 1 歳と 1 歳以下の何が問題なのかについて、私の患者さんを診ていると、保育園に入れないので 0 歳時に入園させなくてはならないという声が非常に多いです。今回、保育園に入られた赤ちゃんは全員 6 か月未満の低年齢で大変です。ワーク・ライフ・バランスということであれば、育児休暇は 1 歳ではなく、1 歳の次の 4 月まで取れるようにしていただかなければ、おそらく何も動かないと思います。1 歳と 1 歳以下の差は大きいと思います。
委員	「1 歳から」について、ここには問 17 と書かれています。問 17 を見てもそのような調査ではないような気がします。「何歳から預けたいのか」の答えに近いのは問 9 ではないかと思いました。問 17 はどこに預けたいのかという質問だと思います。
事務局	施設と年齢に関するクロス集計を実施しています。
委員	この設問 17 は「預けるとしたら、どこに預けたいか」と聞いています。何歳から預けたいのかという問ではないと思います。たまたま、その子どもが何歳だったというだけで、今後預けたいとしたら、どこに預けたいのかを聞いているのではないのでしょうか。
事務局	ただいまのご指摘や表現等含めて検討させていただきたいと思います。
委員	(6) 保護者の働き方等、その他のニーズについて、ワーク・ライフ・バランスの文言を入れていただきました。3 段目の「ワーク・ライフ・バランスを実践している男性の働き方について周知していくことが必要」と書かれています。元々ワーク・ライフ・バランスは、

	男性だけのものではありません。男女であり、年齢も全く関係ありません。働く人全体の問題です。男性の働き方がワーク・ライフ・バランスだということではありませんので、表現を変えていただきたいと思います。これは施策のときにも言っていますが、ワーク・ライフ・バランスの問題は一人ひとりが決められるものではありません。これは組織側が決めたので、みなさん働いています。ひとりでワーク・ライフ・バランスを実践しようと思うと、組織の中では生きにくいと思います。区職員でも同じだと思います。これは、経営者や組織の長の方たちが、今の社会ニーズ・環境・子どものことも考えて、組織の制度を変えなければならないことです。先ほどもご指摘がありましたが、区はセミナー等を実施しています。私も何回か講師をし、参加もしました。参加者の多くは従業員が占めているケースが多いです。経営者に来ていただく方法を考えていただくためにここ何年か提案を行い、社会保険労務士や税理士、組織の長に近い方にワーク・ライフ・バランスのことをご指摘いただくことを、区と連携しようとしています。それでも、経営者の参加は少ないのです。ワークライフバランスセミナーを見ていただければ分かりますが、14、15 人の方が出席しています。それでもワーク・ライフ・バランスは進まない。他のことと違い、しっかりと数字や実績を積み上げていくわけにはいきません。もう少し、区内の事業所や保育園等、様々な組織の幹部の方たちに出ていただくようなアプローチを、施策的にしていただけるようなことをお伝えいただければと思っています。この3段目の表現は違うと思います。少しアレンジしていただければと思います。
事務局	貴重なご意見をありがとうございます。3 番目について、事務局で検討させていただきました。問 32、37 で父親の育児休業の取得等があります。男性の働き方について、1 つのアプローチとして、着目した方がよいのではないかとなくなりました。今回、上手にワーク・ライフ・バランスを取って、実践している方の働き方を紹介できることがよいのではないかと思います。
委員	それもニュアンスはそうなのかなと思いますが、50、60 代の方以上に今の若い方たちは、子どもや家族のことを考えている方が非常に多いです。時間があれば、家族、夫婦で子どもを子育てする意識が非常にあります。それができないのは働いている人、特に男性が働いているという点にルール等が不整備やニーズに合っていないことなのだと思います。男性にもう少し子育てに参加するようにするということは、すばらしいことです。ある意味で、ワーク・ライフ・バランスを実践することを勉強していただくこともよろしいかと思います。その前に働いている職場の様々な制度が変わらなければなりません。また、勤めている男性が家に早く帰れない現実もあります。そのあたりのことが社会的に少し変わっていかなければいけないと思います。できれば、墨田区の企業や法人等がそのことに少し目覚めて、考える方向に進んでいただければと思いました。
事務局	ご意見として受け止めさせていただきたいと思います。
会長	今回書き換えていただいた中で、「子育てに自信がない」「不安や孤独を感じる割合が依然として高い」と書いていただいたことはよかったです。私もそのように読み取れるので、これでよかったと思います。それが何を背景にしているかを考える必要があります。左側の4（3）の子育て支援サービスのニーズについて、地域子ども・子育て支援事業につなげていくことが必要だと書かれています。このデータを見ると、不安感の中に相談相手がいないこと、これが地域支援拠点事業を利用していない方に相談相手がいないことは前回の調査と変

	わらないのかもしれませんが、非常に歴然とした差です。はっきりと地域子育て支援拠点事業を利用していない方の相談相手がいない、相談相手がいないということは不安が高いことです。地域子育て支援事業につなげていくことが必要だということで、文言としてはこれでもよろしいかもしれません。これを具体的にどのようにつなげていくのかという話にこれでもつなげるのかどうか、私にはよく読み取れません。ここに書かれているとおりで良いとは思っています。ただ、もしかすると、子育て支援サービスのニーズの中に依然として、地域子育て支援拠点の利用が少ないです。依然利用が少なく、その方たちの不安感、相談相手がいないと不安感が高いことを明記しておく必要があるのではないかと思います。拠点事業で何をするのか、次の計画の話になります。このままではつなげていくことが必要な場合、今までもつなげていくことが必要だったので、また同じだということではないと思います。おそらく、在宅子育て家庭支援の1番の中核は、子育て支援拠点事業であることが国の事業からも明確です。具体的にどうするのかは分かりませんが、そこに力をかなり入れないと、まずいのではないかと思います。文言の中にどのように入れられるのか、ここは他の項目と並列ではないような気がします。非常に重要なことだと思いますが、いかがでしょうか。
事務局	正に会長のご指摘のとおりです。墨田区では今後、どのように書き込むのかという話がありますが、具体的にどのようなことを考えるのか。このことについて、まずは児童館を子育て支援拠点として、整備を図っていくことを考えています。それからこども園化を図ることにより、こども園のサービスの中で地域の子育て支援を進めていくことで、メニューをたくさん考えているところです。こども園化を広げていくことにより、地域子育て支援の輪を広げていきたいと思っています。特に児童館について、老朽化が進んでいる中、ただ単に化粧直しするだけなのか、あるいは求められている機能が何なのか、その機能を今の児童館のスペースで満たすことができるのか、そのようなことを議論して、更に児童館の整備も進めていきたいと考えております。また、既存の児童館のリニューアルについても、区では考えています。これらのようなことも今後の方向性とし、先生のご指摘も含めて、考えています。
会長	ありがとうございます。非常に賛成です。その時、児童館の弱点は何かと言えば、その後、大きい子どもが来ることだと思います。ひろば研究の中で分かっていることは、長い時間そこにいられるということです。お昼も食べることができ、長い時間いられるということです。児童館をリニューアルするときは、そこも視野に入れてほしいです。利用率が全く変わってきます。食事の場をしっかりと挟むような時間帯になるかどうか、そこが居場所になるかどうかの大きな違いになります。児童館の活用は大賛成です。そこまで含めて視野に入れた改革ができればという意見です。
委員	子育てに対する不安を感じている人、もちろん感じていない人、パートナーが子育てに自信を持っている人、持っていない人がどのように考えているのか、ニーズ調査結果報告書の78、79ページに集計があります。これを見ると、クロス集計しており、「子育てをどのように感じるか別」、「子育てに自信が持てないと感じるか別」、「子育てに不安や孤独を感じるか別」のどのお母さんたちも、子育てにお金がかかり過ぎるところをみなさん共通で7、8割近くの人が不安に思っています。保育園が高いということではなく、どのくらいのお金がかかるのか、私たち子育て世代の人たちは非常に不安です。それが母親のフルタイム就労にもかかり、もしクビになるといけないので「1歳になる前に預けなければ」「塾に入れないと学校に入れないのか」、そのような不安が非常にあると思います。これは主旨から外れるか

	もしもかもしれませんが、お母さんたちの不安、経済的な不安を取り除くためにも拠点で、そのようなことにも踏み込んで相談に乗れるようなサービスが、今後あってもよろしいかと思いました。このページを見ると、非常にニーズが高いです。子育てに対する経済的な不安をどのように取り除いていくのか、それも1つの課題として捉えていただければと思います、声を上げさせていただきます。
会長	ありがとうございます。ご意見ということでよろしいでしょうか。
委員	児童館のことが注目されて、うれしいです。自然体験はお金がかかり、参加できないケースがあります。もう1つ、職員が出ると代休や深夜手当を含めて、非常に経費が掛かることが労働者協同組合で最近明らかになりました。私たちの保育園でも止めようかとなり、困っています。そのようないくつかの問題が出てきています。昔の私たちの世代は手当がないことが当たり前だと思ってきましたが、そうはいきません。そのような問題を考えていただかなければ、今の職員のみなさんは意見がしっかりとしています。ただ働きはしません。そのような対応をしなければ、難しくなっていると思います。
会長	自然体験についてのご意見ですが、いかがでしょうか。
事務局	事務局として、子育てに対する経済的な不安の解消、職員の待遇等のご意見・ご指摘として、受け止めたいと思っています。お金の面になると国においては消費税を10%に上げて、子育てに財源を投入して行うと言っていますが、まだ8%で留まっています。誰しも負担が少なく、良いサービスを受けることができれば良いに越したことはありません。サービス利用と負担について、国家的な課題の中、消費税についても決着がついていない状況です。事務局としてはそのようなものが改定される中で、将来を担う子どもたちの支援をより充実させていくことが望ましいと思っています。この場で「お金がかかるから全て区で面倒をみなさい」とはなりえないと思いますので、そこはご了承いただきたいと思います。
委員	児童館のお話が出ましたので付け加えさせていただきます。私は地域の児童館の運営委員をさせていただいています。運営委員のメンバーは地域の小・中学校の校長先生や町会長、青少年育成委員会のメンバーが入っています。私たちの地域は児童館を応援する地域組織として、ひまわり会がありますが、非常に町会や様々な地域が連携して、素晴らしいイベントを行っています。ご年配の町会長からは「児童館はお金がかかるのか」「学童クラブはどうしたら入れるのか」と聞かれます。自分の子どもが児童館を利用するような方はいませんが、地域の代表の方からそのようなお声が上がりました。子ども・子育て支援部と地域が上手に連携していけば、児童館とはどのようなことを行っていて、困ったときに相談ができることでつながると思います。ある意味ではアピール不足なのかと思います。私自身は児童館を利用して、さまざまなイベントにも参加して、子育てをしてきました。なかなか分かっていない、宝の持ち腐れではないですが、上手にアピールでしていくとお金をかけずに、流しそうめんや餅つき等、様々なことを行っています。そのようなことを上手に広報紙等でもアピールしていると思いますが、進めていくことがよろしいかと思います。児童館運営委員として一言、意見させていただきました。
事務局	先ほど申し上げたように、児童館につきましては今年度から本格的に地域子育て拠点という位置付けの下、そのための人も配置する計画です。そのような人たちのスキルアップを私たちが支援していきます。また、児童館は老朽化しています。トイレもなかなか入りたいようなトイレではない現状があります。やはりソフト面での相談体制を私たちとしても整えた

	いとして、今年度から位置付けをして、人の措置もしています。 もう1つは器として、お母さん方が相談しに行ってもよい施設にしたいと思い、施設改修をできるだけ早くしようと検討して、どのような施設改修がよいのかも明らかにして、予算付けを図るように努力したいと思っています。
委員	ぜひそのようにしていただきたいと思います。場所はあるのに宝の持ち腐れではもったいないと思います。ぜひすばらしい活用ができればと思います。
会長	各委員が、長らく児童館の問題をここで言われ続けてきて、墨田区は特に他の区と違い、児童館へ非常に力を入れています。歴史的にもそうです。今のお話からももっと未就学親子も含めて、もっと多様な可能性のため、おそらく学齢部会だけではなく全体の議論で部長がおっしゃってくださったように今後、そこに力を入れていくということです。その議論が上手に進めばと今のご意見も含めて、感じました。ありがとうございます。
委員	今の児童館のお話について、小学2年生の子どもがいる母親の立場です。私自身は子どもを学童に預けているので、比較的児童館の利用は理解していますし、活用しています。まわりのお母さんたちの状況や意見を聞く限りでは、様々なお知らせを学校からいただきます。児童館で行っている活動やイベントを印刷物で知る機会が多いです。その一步を踏み出せない方は非常に多いと感じます。その一步を踏み出せない方は、最初の子どもの小さいときになかなか相談に行けなかった方で、学年が上がっても積極的にそのようなところに自分から入っていきません。相談しにいけない方はずっといると思います。そのような方たちがますます悩みを抱えるケースがあると思います。これが可能かどうかは分かりません。すでに行っているかもしれませんが、たとえば幼稚園や保育園の段階で児童館に行って、そこで遊ぶ経験を子どもたちにさせるような時間を、学校や幼稚園、保育園側で少しずつでも設けていただくと子どもはそこで遊ぶ楽しみを知り、家に持ち帰ると親に言うと思います。どこに行っても、どのような遊びをしたかを言うと、母親もそれに対して安心します。今度、土日で一緒に行ってみようということにもなりやすいかと思っています。私の子どもは、比較的図書館もまめに利用して、遊び方も知っています。学童に入れない年齢になっても児童館に行き、遊べる、安心できる場がそこにあるという意識があります。利用しないままの方は、そこに自分の子どもをいきなり行かせることも不安です。ご本人自身も踏み込めないまま、そのまま利用しないで終わっていると思います。そのような方たちに印刷物でどれだけアプローチをしても、なかなかそこを引っ張り上げてあげる必要がどこまであるのかという問題はあるかもしれませんが、活用や力を入れていくことを考えれば、そのような積極的に団体に活用を指導して、利用してもらう経験を小さいときからさせていくことで楽しさを知ってもらうきっかけにもなるかと思っています。1つの案として、考えていただければと思います。
事務局	PRは永遠の課題ですので進めていきます。会長からもご指摘がありましたが、乳幼児事業を行っています。児童館、特に午前中を中心に親子で様々な活動をする時間帯があります。そのようなことで児童館を体験していただき、馴染んでいただければということが1つです。それから児童館自体では、各種夏祭りや秋の大会等、人に集まっていただく大会も行っています。もちろん紙ベースのお知らせが基本になりますが、そのようなもので児童館に馴染んでいただければと考えています。
委員	私は利用している側ですので、そのようなイベントがあることは知っています。先ほど言わせていただいたのは、そのようなところで親子のイベントがあるということは知っていて

	も利用していない方、利用されない方が非常に多いことがまわりを見る限りいらっしゃるという認識です。学校や保育園、幼稚園等の単位で子どもをまとめて、クラスで連れて行くようなことができると、親子で来てほしいというイベントがあることは知っていても、親子で行けない人、行かない人が大勢いるからこそ、まだ活用しきれていないということだと思います。親子で来てほしいイベントも多く行っていることを、どれだけ言っても来ないのであれば、幼稚園や保育園のクラス単位で遊びに来てもらう経験をして、子どもがそこは楽しいという認識を家に持ち帰ることで、親も次は一緒にイベントに行こうというきっかけになるかと思います。親子で来ない方に向けて、そのような団体で保育園の先生がクラスの子どもを外遊びの日に1日児童館に連れて行き、遊ぶ経験をさせる連動をさせることで、なかなか一歩を踏み出せなかった親が子どもと一緒に踏み出せるきっかけにはなるかと思います。そこで一歩踏み出してくれれば、相談しやすい場所、子どもを連れて来ても安全な場所だということをそこではじめて分かります。親子でのイベントに来ない人をどのように動かすのかという意味でした。
副会長	この提言はすばらしいと思います。先ほどワーク・ライフ・バランスの話がありました。児童館の問題も実は大きな構造上の問題があります。教育と福祉の谷間の問題だと思います。共通認識がありません。児童館はそのような意味では非常にご発言の中に象徴されています。幼保小中一貫教育は進んでいます。様々な地域差は大分あるようですが、非常に可能性があります。幼保小中の中に児童館は入っていません。幼保はいいですが、小中の中に児童館の関係者が入った方がよろしいかと思いますが、抜けています。これは典型的な認識の谷間の問題です。まず、この子育て会議でしなければいけないことは、放課後を考えることです。教育関係者と福祉関係者、健全育成、児童館、学童クラブ等、放課後の事柄に関連する方、他には保護者が一同に会さなければ、ここは抜け落ちます。子ども・子育て会議で行わずにどこができるのでしょうか。 もう1つはワーク・ライフ・バランスの問題です。やはり長が集まらなければいけないと思います。少しは変わってくると思います。委員からもありましたが、社会労務士にでも集まってもらう等、様々な仕掛けをしてはどうでしょうか。具体的な提案も出ています。そのような議論の場を1回、持たなければいけないと思います。 また、子どもの親の不安の解消は相談です。相談できるような場所が必要です。地域子育て支援拠点事業、これを明確に出してほしいというお話でした。そこに対して、事務局からは、こども園化を進めますということでした。それから、子育て支援をもっと児童館の中にも反映させて、広い範囲の仕事を児童館がするというのであれば、それなりの配慮がいります。そして、しっかりと対応することが拠点にもなりうるかもしれません。小さい子どもが小さいときの特別な支援、この視点も必要なご提案でした。このようなことを総合的に話してみたいと思います。 事務局からは、児童館は老朽化でという話がありました。「老朽化のために新しくする」「切羽詰まっている」というよりは、もっと積極的に児童版の地域包括支援センターのようなものがが必要です。そのような意味では幼保関係は総合センターがその役割を行っています。そこではある程度の連携もあり、全体が見えています。今度はそれをもう少し地域の一般の子どもたちが集まれるような場所が必要です。それが今後の地域放課後支援センターとなり、児童館が様変わりします。その中に乳幼児部会から出てくるような提案が入ってきます。

	そのようなことで進めることがよろしいかと思ひます。そのためにも何か、まずは放課後を考えるような会合ができればと思ひ、この会議でできたらよいと思ひます。 ワークライフバランスの事柄に関しても、乳児に直接関係しています。そのことについても大人の責任として考え、現状について大きな課題が残っていると思ひています。ここで提案されていることは全て、もっともだと思ひます。よく精査されていると思ひますが、根本の事柄が残っています。これをどうにかしなければいけないと思ひます。
委員	児童館のことが非常に話題になって、うれしいです。現状を申し上げますと元々の児童館には、0 から 3 歳までの幼児クラスがあると思ひます。墨田区のテーマ事業になります。ある児童館でもキャパシティーがなくてできない、入れない状況が出てきています。委員が言われた乳幼児の拠点には児童館が担っており、30 年くらいかけて長らく行ってきました。放課後の児童館では、小学生は 14 時以降にしか来ません。そこを上手に利用して、幼稚園児の支援事業を行っています。ただ、問題はどうしても常連が中心になってしまいます。それを見て、入りにくい状況が実際はあります。現場では非常に悩んでいます。常連に来ないようにはと言えませんが、お母さんたちがワイワイ、そこにはなかなか入っていくことができません。児童館は 0 から 18 歳が対象です。低学年にほとんど集中しています。それを乗り越えていかなければならない大きな課題だと思ひます。 もう 1 つ、放課後子ども教室、総合プランとされているものが墨田区ではじまりました。月 1 回だと思ひますが、それではいけないと思ひています。学童クラブは一定の枠があります。誰もが入れません。この放課後子ども教室は誰でも行けます。これがもっと広がっていくと地域の中には学童クラブ、児童館、放課後子ども教室、3 つの居場所ができます。これで大体の子どもたちの居場所が確保できると思ひます。そのことを今度の新しい計画で推進していただきたいというよりも、しなければいけないと思ひています。
会長	キャパシティーの問題だとすれば、大問題です。ひろばが予約制ではいけないと思ひています。キャパシティーの問題だとすれば、根本的な問題を検討しなければいけません。来たい人がそもそも来ることができるキャパシティーになっていないとすれば、そこはもちろん幼稚園や保育園のようにみなさん、決まったときに決まっているように来るわけではありません。何を持ってキャパシティーを数えるかは分かりません。入れない状況だとすれば、大きな問題になってきます。
委員	私は江東橋児童館を何度か利用したことがあります。そこは学童も行っていて、おそらく墨田区の中でも大きく、恵まれていて、設備は充実していると思ひます。委員がおっしゃっていることは全くその通りだと思ひながら、聞いていました。乳児の場合、10 人も 20 人も入れるようなスペースはないので、いつ行っても比較的に混んでいる感じは非常にあります。ただ、危険だということではありません。委員がおっしゃるように、その中でコミュニティのようなものが出来ているので少し入りにくいことはあります。キャパシティーとしては危ないので帰ってくださいとは、一度も言われたことはありません。普通に利用する分には問題はないかと思ひます。休みの日に料理教室やイベント、餅つき、サンタをつくること等が行われています。それに関しては結構人数制限があり、早い者勝ちで人気があり、もう締め切りましたと言われることがあります。そこにもう少しキャパシティーがあればと思ひますが、贅沢は言えないかなと思ひています。そこそこ、お母さんたちからは人気だが、早めに予約すれば入れるという感じのイメージで使わせていただいています。

会長	特に重要なのは0、1歳です。そこが行ける場所になっているのかどうか、これもワーク・ライフ・バランスの話や小児科医院へたくさん相談に行くことと、問題は非常に連動しています。そこが0、1歳の親子がいつでもふらっと行くことができる状態になっているのかどうかの問題だと思いますが、いかがでしょうか。
委員	活動については、基本的に定員を設けない制度で長らく行ってきました。人によっては混み合っているのが帰りますと言われる問題もあります。児童館はほとんど幼児室を持っています。そこをどのように活用していくのか、大きな問題です。考えていることは専従の担当を置くことです。そのようなことを考えて、実施をしていこうと相談員が義務化されましたのでもうすぐ良くなっていくと思っています。
委員	疑問に思ったことがあります。地域子育て支援拠点は、確か1日5時間以上でしたでしょうか。支援専門員が2人以上いるということだと思います。午前中だけというよりも午後も含めて、いなくてははいけないはずですが。利用者支援についても専従の方が1人いなくてははいけません。
会長	それは違います。利用者支援は必ず全てではありませんが、専任はいなければいけないかもしれません。
委員	先ほど児童館と学童の話が出ていました。話がはずれますが、4（2）の学童クラブについて、赤文字で「高学年においても一定のニーズがある」と書かれています。これはそのとおりだと思います。何か広がるという話を聞いていると、1年生の割合は6、7割を占めています。高学年は確かにニーズがある。もっと小さい2、3年生の需要がある人が入れないということは問題が高いと思います。ここに書いてしまうと6年生まで広げることが中心になってしまいます。
会長	児童館は地域子育て支援拠点事業として位置付けるのでしょうか。それは明確でしょうか。そのようです。 利用者支援事業については、おそらく全てではなかったと思います。利用者支援の方は、いろんな意味での窓口になる方です。そのような拠点等の広場的な親子が、いつも集う場所に気軽にいる人、役所に座っている人ではなく、気軽に話す場所にいるとよいという制度ではあります。それが全てにいななければいけないかどうかは私も分かりません。
事務局	利用者支援専門員として、昨年度から実施しています。児童館の職員も必ずこの研修を受講しています。
会長	全てのところに現在いるのでしょうか。
事務局	様々な子育て関係の社会資源のことを勉強していただき、相談を受けたときにどこに相談したらよいのか等仕切り役ができるような人材を育成しています。この4月からはじまったばかりですが、人材育成を更に強めて、そのような仕切りがより整備してできるように人材育成を図っていきたいと思っています。
委員	児童館の中へ0、1、2歳の子どもをもった保護者の方が、遊びに行けるようにしていくという今の話でした。なかなかそれは難しいと思っています。子育てひろばは、墨田区に2か所、両国と文花にあります。非常に活用されています。児童館と子育てひろばは、お互いに連携したり、見学しに行くことがあるのでしょうか。
事務局	実は、両ひろばを中心にひろばネットというものを構築しています。年に全体会を2回、両方のひろばと児童館、保育等の関係機関、H u g さんやファミリー・サポート・センター

	等も入ったネットワークをつくっています。両ひろばを中心としたネットワークですが、これを一体として集めて会議を行う全体会が年2回です。分科会という、それぞれのひろばを中心に、様々な情報交換や相談対応能力を上げるように事例検討等を年3、4回行っています。
委員	それは会議体でしょうか。お互いに現場を見に行くこと等はないのでしょうか。お互いに見に行くことが非常に有効だと思います。
委員	子育てひろばがいくつかあります。そのような連携はあります。児童館はやはり限界があります。そこをどのように広げるのかという問題が大きな課題だと思っています。そのような中、できるだけ乳幼児に対しても努力はしています。児童館の児童構成は元々、小学生が対象です。
委員	少し限界があるのではないかと私は思っています。正直、利用する母親との接点が多いです。児童館に行きにくいという声を非常に聞きます。携わっている方も限界を感じているようです。この会議の中では、もっと活用した方がよいという方向になっていますが、無理があるのではないかと正直、思っています。別の方法はありますか。
委員	先ほどから聞いていて、やはり児童館は児童です。子育てひろば機能を児童館に持たせる場合、やはり子育てひろば機能は別のことをしなければいけません。今の子育てはおっしゃったように小さい子どもをもっているお母さんは非常に不安です。夕方、相談に行きたい方も出てくると思います。急に夜に具合が悪くなり、医者に行ってくださいでも構いませんが、不安になった方が大勢来ます。先ほどから言われているように1日中、いつでも行けるということは大事です。おもちゃや大きな子が飛び込んで来て、その逆に大きな子も自分たちの居場所が赤ちゃんたちに奪われてしまうという感覚もおそらくあると思います。最終的にはワーク・ライフ・バランスを何とかすれば、みなさん家に帰って来るのでどちらもいりません。本当の究極の解決法はそうだと思います。まずは、小さい子どもをもったお母さんたちの解消をしなければ、学童の不安にもつながっていきます。もう少し、小さい子どもにも目を向けて、子育てひろば事業について、もし児童館を整備するのであれば、子育てひろば部分を児童館と併設でも構いませんので広げていただかなければ、難しいのではと傍で聞いていました。
委員	ほとんどの児童館は、乳幼児が午前中使っています。水曜日は少し早いです。児童館も一応、無い知恵を絞って、がんばっていると私は思っています。ただ、通常のひろば事業のような対応は難しいです。私たちは率直に認めています。これからもっと研修をして、ある程度耐えられるように職員養成をしなければいけないと思っています。
会長	親子の居場所として、委員のところはそのノウハウを持っています。そのことはよく分かっていると思います。現状取り組んでいることのご苦労の話をされたと思います。私が先ほど申し上げたこと、弱点は時間がないことと言ったことがその1つです。取り組む方が全て行う人が同じ人でよいのかという課題も出てくると思います。そのようなことも含めて、ぜひご検討くださいというメッセージのつもりでいました。個人差の問題ではないと思います。
委員	今までのお話を聞いていて、先ほどの委員の話ではないですが、子どもがいながら、なかなか児童館に行きづらいということでした。私は市民後見人、お年寄りの方のお手伝いをしています。それは地域包括センターがあります。その子ども版がなんとなく今の話を聞くと

	児童館の場合、児童館のハード等、いわゆる従来の機能はもちろんあります。子育ての様々なこと、正に墨田区は先駆的かもしれませんが、様々なアイテム、ハードもいろいろとあります。意外と知っているつもりでも児童館はなかなか行けていません。児童館にそのような機能を持たすのであれば、やはり児童館の従来の機能も上げながらも子育てコンシェルジュ等があったかもしれません。墨田区はたくさんのアイテムがあります。それを使えるようなもの、ハードを使いながらも別の組織、あるいは様々な組織があります。昔取った杵柄でどんだん活躍したい人がいると思います。そのようなことを融合すれば、おそらく区職員の方も今日はたまたま子育て会議ですが、今までは社会福祉課や老人の方にいたり等があると思います。上手に使えればと思いました。議題から離れているかもしれませんが、今までの話を聞いていると様々なアイテムがあると思います。ハードだけではなく、ソフトも、老人の方ではケアマネジャーと言いますが、子どもマネージャーのような方がいればと思いました。
会長	利用者支援事業は、本来そのケアマネジャーの子育て版です。それまで求めたものになっているのかどうかという問題があるので、私は本当に全てですかという、研修としてはそうだと思います。先ほど委員が地域包括的とおっしゃっていました。私が理事をしている法人は横浜ですが、そのようなものを今、つくりはじめています。そのときに当たり前ですが全てをまとめてではありません。親子の子育てひろばの機能はそれとして、しっかりと保障されているということです。でも交流ができるようになっていきます。あれもこれもではありません。包括支援センター的なところを目指すのであれば、そのようなことも視野に入れた方がよいということになります。 そろそろ話をお戻ししてもよろしいでしょうか。そのような議論も含めて、これから離れて、今後、それを具現化するのかというところまで話が行ったということでご理解いただいていると思います。ここまではよろしいでしょうか。この件はお戻しします。 それでは次に進みます。

(2)その他

会長	後はその他となっています。その他について、何か事務局からはありますか。
事務局	(児童館の今後についての説明)
会長	児童館のことは今後も議論していく報告でした。 先ほど触れることができませんでしたが、多くの意見が出ました。必要なところをここに反映していただけるようにお願いします。
委員	今日は1章と3章の議論がこれで終わり、次は1章と3章は行わないのでしょうか。
事務局	今回は修正箇所として、1章と3章を議論しました。次回の議論では全体を議論したいと思っています。
委員	次回で構いませんので教えてください。新しい資料の28ページの第3章の直近値と目標値についてです。たとえば最初の子どもの③、目標値が65%ですが、すでに直近値が81.1%の数字が出ている場合の取り扱いをどのように考えているのでしょうか。逆にその上の②ずっと住み続けていたいと思う割合が目標値からは少し低めです。そのように考えるとこの65%を目標にした根拠は何なのかと思いました。例えば、この目標値を65%にしなければ

	いけない理由があったのか、素朴な疑問です。中学生や高校生が夢を持って、今のグローバルな社会で海外に出かけて仕事をしたいと思うことは、今の時代では自然な流れだと思います。ずっと墨田区に住み続けさせる 65%の目標値が本当に目標でよいのかも含めた議論はおそらく行ったような記憶がありません。これを評価として、どのように捉えるのか等の話は次回にできればと思っていますのでよろしくお願いします。
会長	ありがとうございます。それでは次回、よろしくお願いします。

3 次回開催予定

会長	次回の開催予定について、お願いします。
事務局	次回開催予定 日時：5月16日（火）午後6時30分

4 閉会

会長	これで会議は終了といたします。本日はありがとうございました。
----	--------------------------------

以上